

# 圓教寺 × 杉本博司



2022.4.29 Fri. — 8.31 Wed. Five Elements 五輪塔——地 水 火 風 空  
2022.9.17 Sat. — 12.4 Sun. Noh Climax 能クライマックス——翁 神 男 女 狂 鬼

会場：書寫山圓教寺 常行堂(国指定重要文化財) 休場日：会期中無休 開場時間：午前10時–午後4時(最終入場：午後3時45分まで)  
主催：書寫山圓教寺、姫路市立美術館 協力：兵庫県立歴史博物館、公益財団法人小田原文化財団、ギャラリー小柳、新素材研究所、杉本スタジオ  
後援：朝日新聞姫路支局、神戸新聞社、産経新聞社神戸総局、サンテレビジョン、播磨時報社、播磨リビング新聞社、姫路ケーブルテレビ、  
姫路シティFM21、毎日新聞姫路支局、読売新聞姫路支局、ラジオ関西(50音順)

《Noh Climax》9/17より上映

映像監督：杉本博司 映像撮影：鈴木心

撮影場所：姫路城、書寫山圓教寺 製作・著作：杉本博司、国際交流基金 制作協力：公益財団法人小田原文化財団、姫路市立美術館



書寫山圓教寺



常行堂展示風景 Photo: Sugimoto Studio

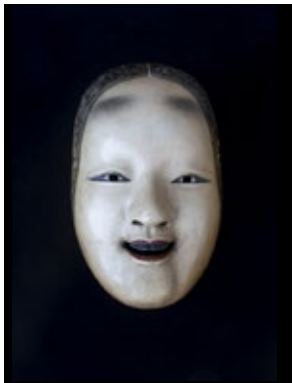
## ENGYOJI TEMPLE × HIROSHI SUGIMOTO

# 圓教寺 × 杉本博司

享徳2年(1452)に上棟された書寫山圓教寺の国指定重要文化財常行堂は、通常是非公開の建造物である。かつては90日間にわたって外界を遮断し、ひたすら本尊である阿弥陀如来の御名を唱えながらその周りを歩き続ける修行「常行三昧」が行われた道場である。その常行堂が現代美術作家・杉本博司の手によって新たな芸術空間として開かれることとなった。

前期展示「Five Elements 五輪塔——地 水 火 風 空」では、国指定重要文化財《阿弥陀如来坐像》(平安時代中期)の周りを巡るように杉本の《光学硝子五輪塔》が配置されている。世界の構成要素である地・水・火・風・空を形象化した五輪塔を透明度の高い光学ガラスで作成し、水輪(球体部)に世界中の海を撮影した「海景」のフィルムを封じ込めた。海景は杉本自身の最も古い記憶、意識の源であり、人ひとりいない海は人類の意識の起源を表すものでもある。いわば、常行三昧が形を変えてここに再現されたのである。また今回の展示をきっかけに、須弥壇上の《阿弥陀如来坐像》の背後に隠れていた壁画《二十五菩薩來迎図》がその全容を現す展示が実現した。優美に微笑む菩薩たちと阿弥陀如来、そしてその周りを巡る五輪塔が一体となった常行堂内部は、様々な時代が同時に存在する多次元空間となったのである。

後期展示「Noh Climax 能クライマックス——翁 神 男 女 狂 鬼」では、能の5大テーマである「神男女狂鬼」に「翁」を加え、各曲目の名場面を一つに結実させた杉本博司監督の映像作品《Noh Climax》のインスタレーションが堂内に加わる。この《Noh Climax》において杉本は、常行堂の能舞台、そして備前丸や築城当時の床が残る本丸の口の渡槽といった姫路城の各所を舞台とし、能楽師たちに杉本が所蔵する室町、桃山時代の能面と装束を纏わせ、自然光の中で「神がかりの状態の再現」に挑んだ。時間・歴史・人間の意識をテーマとする杉本芸術の壮大な世界観が、観る者を400年前の世界へといざなう。



左:《小面》是閑 右:《白式尉》小田原文化財団蔵 ©Odawara Art Foundation  
Photo: Sugimoto Studio

観覧料: 一般 500円 大高 200円 中小 100円 ※別途、志納金必要

交通のご案内

◎ロープウェイ山籠駅まで

JR・山陽電鉄 姫路駅バスターミナル⑩乗場から神姫バス「書写山ロープウェイ行」で終点下車(約30分)

◎ロープウェイ山籠駅から

山上駅下車(約4分) ※8:30より毎時00分、15分、30分、45分出発

志納所(ロープウェイ山上駅すぐ)からマイクロバスで摩尼殿下車

※マイクロバスは特別志納金500円で往復ご乗車いただけます

◎摩尼殿下より徒歩(約10分)

バス・ロープウェイについての詳細は神姫バスHP (<https://www.shinkibus.co.jp/>)をご覧ください。